

アトリエ 琉游舎 だより 99号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2021年2月24日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

九十九折り

- 九十九折り（つづらおり）は、幾重にも曲がりくねって続く坂道を表す言葉です。登山道や峠の坂道では、最短距離（山裾と頂上を結ぶ直線上）に経路を設定すると急勾配になり過ぎ、体力を消耗し危険が増します。結局目的地にたどり着けない可能性も出てくるでしょう。
- くねくねと曲がる道で距離は数倍にもなっても、急がば回れ、慌てず焦らず折り返しを繰り返して、少しずつ高度を上げていけばいつのまにか目的地に近づいているはず。九十九折りの折り返しを九十九回繰り返して、琉游舎だよりも九十九号を迎えました。もしや、同じところを九十九回行ったり来たりした繰り返しだけだったかもしれませんが、それでも歩いた歩数や時間は確かなものとしてこの琉游舎の中に積みあがっていると信じています。
- 九十九は「くじゅうく」「つづら」「つくも」と読まれ、「多い」の意味が込められています。九十九里浜、九十九島、九十九湾などの地名が各地にあります。また百から一を取り除くと白という字になることから老女の白髪を九十九髪、99歳のお祝いは白寿といえますね。
- 99は二桁最大の自然数で、 $99 = 2^3 + 3^3 + 4^3$ $99 = (9 + 9) + (9 \times 9)$ と美しい数式にも分解できます。百の一手手前で存在感が薄いようですが、美と多と寿を備えためでたい数字です。
- 九十九神（付喪神）という神様もいます。長い年月を経た道具などに神や精霊などが宿ったもので、人の心を誑（たぶら）かすとされています。そういえば日本の九十九代内閣総理大臣は皆さんよくご存じの菅義偉氏です。さてこの方の九十九は美？多？寿？誑？どの漢字がふさわしいでしょう。もっとも99代に限らず代々この席にある人たちは、ヒトを誑かすことがお仕事とお見受けしますが、どうせなら気づかぬうちに、気持ちよく誑かされたいものですね。

2・3月スケジュール

月 火 水			木	金	土	日
3月1日	2	3	4 映画会 13時半	5	6	7 写経会 13時半
8	9 読書会 13時半	10	11 映画会 13時半	12	13 詩話会 13時半	14
15	16	17	18 映画会 13時半	19	20	21
22 彼岸会法要 10時半	23 読書会 13時半	24	25 映画会13時半 居酒屋の会16時半	26	27	28
29	30	31	4月1日 映画会 13時半	2	3	4 写経会 13時半

写経会
3月7日(日)
4月4日(日)
13時半から

読書会
3月9日(火)
3月23日(火)
13時半から

詩話会
3月13日(土)
13時半から

映画会
毎週木曜日
13時半から

居酒屋の会
3月25日(木)
16時半から

世の中がコロナとオリンピックで喧しい中、去る2月16日は宗祖日蓮聖人のご誕生日でした。1222年（承久4年）現在の千葉県の太平洋に面する天津小湊町にお生れになり、今年が生誕800年の記念の年にあたります。この前年に承久の乱がありました。後鳥羽上皇が武家から政治権力を取り戻そうとして仕掛けた戦乱ですが、結局鎌倉幕府側の勝利に終わり、以後朝廷は権力で政治を支配するのではなく、権威で政治や日本人の精神に君臨する役割となり今日に至りました。政治権力者は執権の北条氏でしたが、権威上は朝廷から任命された征夷大將軍を鎌倉幕府に迎えその下で執権が政治を司っていたのです。権力上は北条氏が最上位でも、日本の権威者は天皇であり摂関家から派遣された将軍が幕府の最高権威者です。彼が生まれた時代は新旧の権力と権威が入り乱れた混沌の時代だったのです。仏教界も国家の安寧を祈願する旧仏教と個人の救いを実現する新仏教が烈しくせめぎ合い、仏教の存立基盤が問われた宗教革命の時代でもありました。

現代日本の最高権力者は憲法に「主権在民」とあるように、建前上は国民が日本国の権力を持つと規定されています。名目上の権力者である国民の投票で選ばれた国会議員のそのまた投票で、実質的な権力者総理大臣が選ばれます。民主的な手続きの有無はさておき、今も昔も建前（権威）と実質（権力）の構造が、私には同じように見えてしまいます。朝廷（国民）→鎌倉幕府（国会）→執権（首相）と重ね合わせれば、権威は上へ上へと棚上げされ権力から遠ざけられるに従い、実質的な権力者の権力独占が強まっていくようです。朝廷は精神的権威を継承する有職故実の世界に安住し、権力を求めないことで存続が許され、戦後の日本国民はScreen（ハリウッド）Sport（プロスポーツ）Sex（性産業）を用いて大衆の関心を政治に向けさせないようする3S政策（GHQ＝米国の日本人を骨抜きにするための占領政策といわれる）により、権力の行使である選挙に全く興味を持たせないように飼い慣らされました。名目上の権威（朝廷・国民）と実質的な権力（執権・首相）の二重構造の距離が広がれば広がるほど、今も昔もそのすき間に災難が入り込んできます。

「旅客来りて嘆いて曰く、近年より近日に至るまで、天変・地天・飢饉・疫癘、遍く天下に満ち広く地上に迸る 牛馬巷に斃れ骸骨路に充てり。死を招くの輩既に大半に超え云々」日蓮聖人が1260年に幕府に上呈した「立正安国論」の冒頭の言葉です。吾妻鏡^{注1}には毎年のように日照り・地震・暴風雨・洪水・疫病の記事が絶えません。特に1257年の大地震はまことに凄まじいものだったようで「戌の刻（午後8時）大地震。音あり。神社仏閣一宇として全きことなし。山岳頽崩、人屋顛倒し、築地みなことごとく破損し、所々地裂け、水湧き出づ。地裂け破れその中より火炎燃え出づ」と記録されています。息つく間もなく鎌倉周辺は天変地異に襲われ、飢饉と疫病で牛馬は斃れ伏し、人の骸骨が道に溢れ、大半の人が亡くなる有様でした。一方時の権力者北条時頼は中国から渡来した禅の高僧蘭溪道隆を鎌倉に招き有名な建長寺を建立して彼に与えるなど、神社仏閣は鎌倉中に立ち並び、幕府の保護を受けて仏教はますます興隆しているように見えました。

仏法が盛んな国で何故かくも庶民を苦しめる災害が次々に起こるのか、日蓮聖人はその答えを一切経（釈迦の教説にかかわる経・律・論の經典の総称）に求めました。論理構成をすべてそれに負っているため、現代からみれば科学的根拠のない檄文と見えるかも知れませんが、彼は「日本国で次々に起こる災難は人々が正法に背き悪法に帰依したことが原因。国家滅亡の危機に瀕している今、仏法存続の基礎となる国土と人民の安穩を祈らなければならない」と論じた、当時まれに見る合理的な書です。かつて仏教は最高にして唯一の学問体系でした。それを駆使する僧侶は当代随一の学者であり社会改革者だったのです。その彼の理性的合理的提案はことごとく無視されました。各寺々で怨敵・災厄退散の祈祷が盛んな中、それは過ちだ、正法による正しい政治（祈り）を行いなさいと諫言する人の言葉を権力者は聞けるものではありません。現代でも自然災害に関して人はほとんど無力です。鎌倉時代は尚更です。その自然に権力を行使しなさいと要求されても、幕府は握りつぶすか反逆者と罰するほかないでしょう。権力にとっては現在の権威維持が最重要なのに、個人救済のためにそれを否定せよといわれても聞く耳を持たないの言うまでもないことなのです。

10年前の震災以来日本を頻繁に襲う台風や洪水噴火などの災害は、コロナ禍を頂点として800年前と同じ状況を呈しているように思えます。自然災害に対する無力を「想定外」という言葉で正当化して災難を何とかやり過ごそうとしている姿勢は、日蓮聖人の諫言を無視し、実効性のない加持祈祷が最善の道と民衆に信じ込ませた方策と同じです。人の反発や抵抗は想定できても自然の怒りは想定できません。だから「想定外」は加持祈祷と同じように疫病や地震を防げなかったとことを正当化できる都合のよいおまじないなのです。

権威と権力が一致しているならば、危機にあたっては必死になって解決策を考え実行することでしょう。でなければ責任を問われ権力を失うこととなるからです。鎌倉時代の権力者はその解決を仏教権威の加持祈祷と2、3年の短期間で繰り返される改元（元号を新しくする）に委ねました。改元は天皇の専権事項、朝廷の権威を借りて疫病、兵乱、天変地異といった災厄から人心を一新しようとしたのです。権力が権威に災害の解決と責任を肩代わりしてもらい、自らの無作為を正当化しているということです。このすき間に災難が次から次へと入り込んできます。今も同じです。国民に自粛と自助を委ね、祈祷に代えオリンピックで災厄を退散させようとしている権力のやり方は、権威と権力の二重構造を容認し使い分けてき